



板五米店

Team on time

17N1017 岡田彩音
17N1058 関根康成
17N1064 高木夏奈子
17N1071 田島悠貴
17N1086 半田政人

板五米店



外観



一階



中二階



二階

概要

建築年：大正6年(1917)

東京都の近代和風建築より

棟札には“上棟 大正三年六月二十二日”と記載

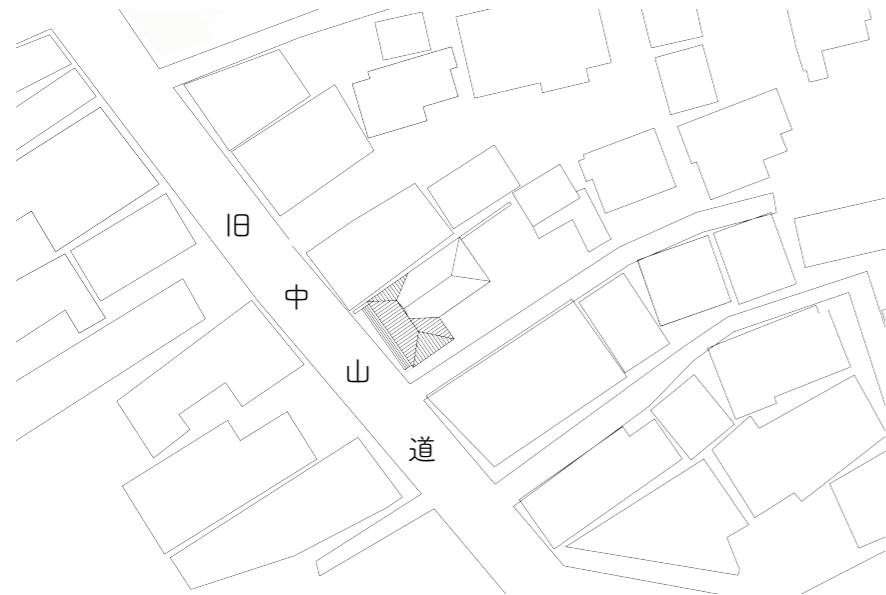
構造

店舗部分：黒漆喰塗りの土蔵造
屋根は寄棟造棧瓦葺

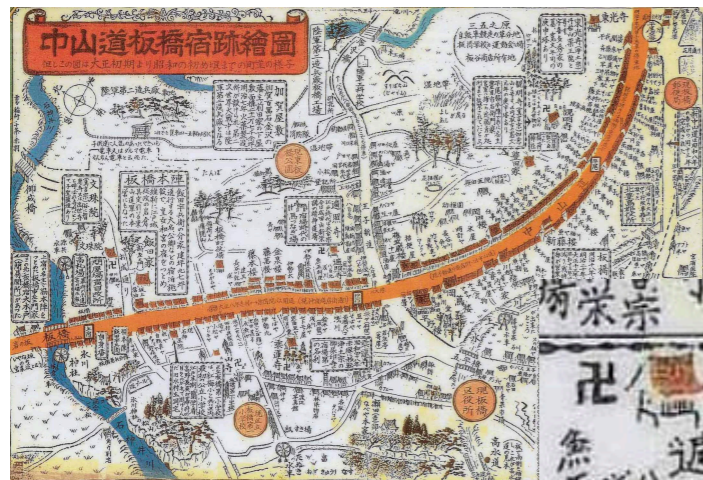
住居部分：木造2階建

蔵：煉瓦造り
(現在は取り壊されている)

板五米店の沿革



旧中山道仲宿交差点より北側、仲宿商店街沿いに位置する、板橋宿の面影を残す昔ながらの商家である。
建設当初は「田中米店」と称する穀類の小売業を営んでいた。
現在の板五米店という名前は、米が配給であった時代の「板五食料販売所」の名残であり、昭和27年ごろ米の売買が民営化されると共に板五米店として営業していた。



中山道板橋宿跡繪図

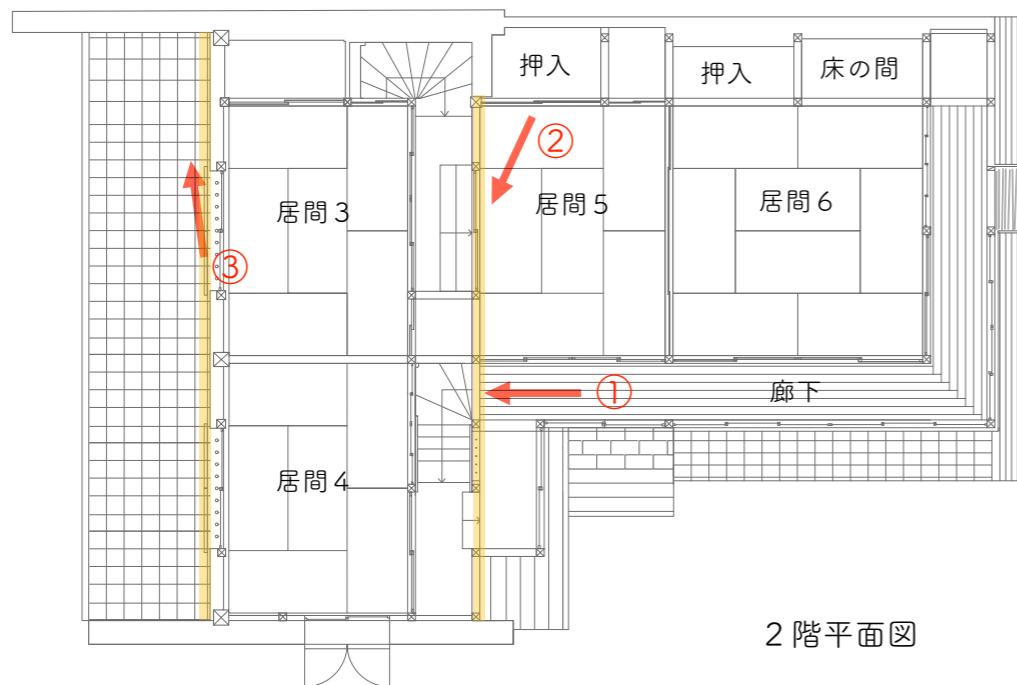
大正初期から昭和の初め頃の街並が記録されている



昭和40年代の仲宿商店街 板橋区公文書館提供

テンションバー

両妻の煉瓦壁が倒れるのを防止するためにテンションバー（引張鉄筋）が設けられている。このテンションバーは、店舗部分の前と後ろ、2階床レベル、2階内法上など数カ所に設置されており、調整用のタンバックルも付いている。中2階の雨戸は敷居鴨居ではなく、テンションバーをガイドとする吊戸になっている。



①



調整用タンバックル

②



壁に食い込むように配置されている

③

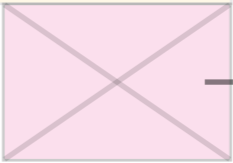
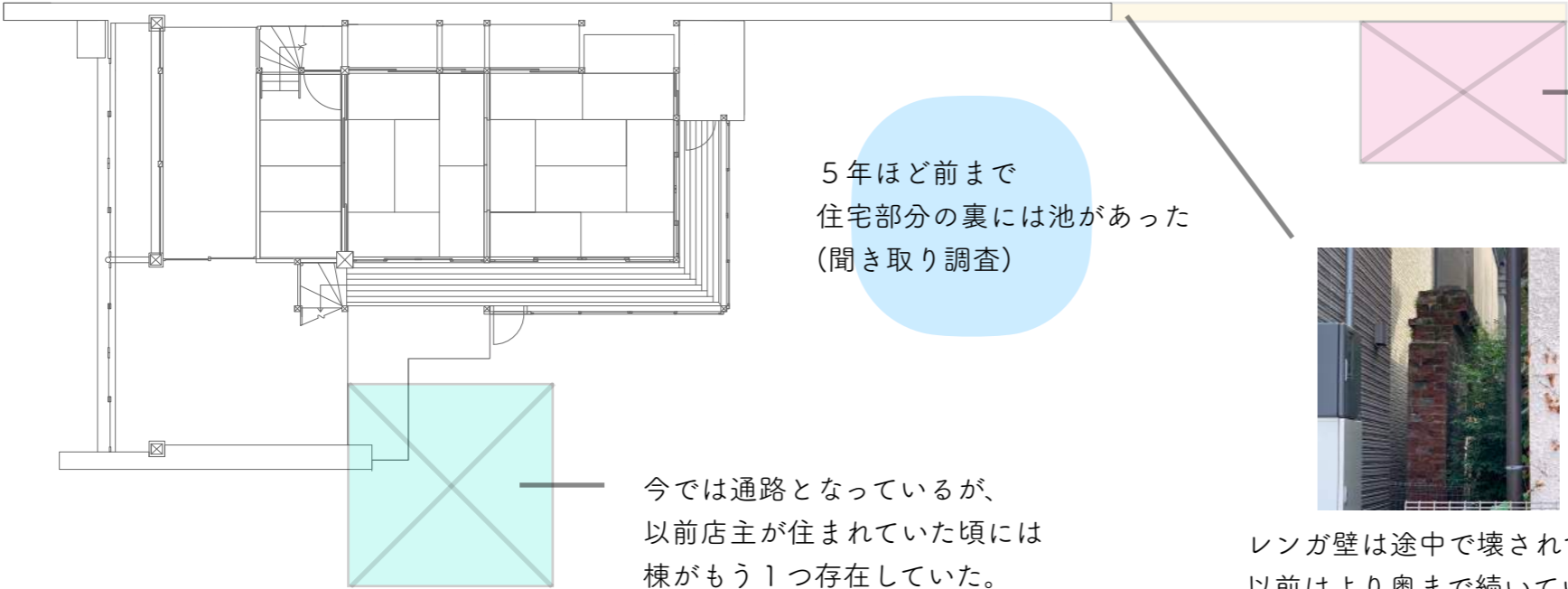


雨戸のガイドとしての利用

増減築



板五米店は100年以上の歴史の中で、生活に合わせて幾度も増減築が行われてきた。



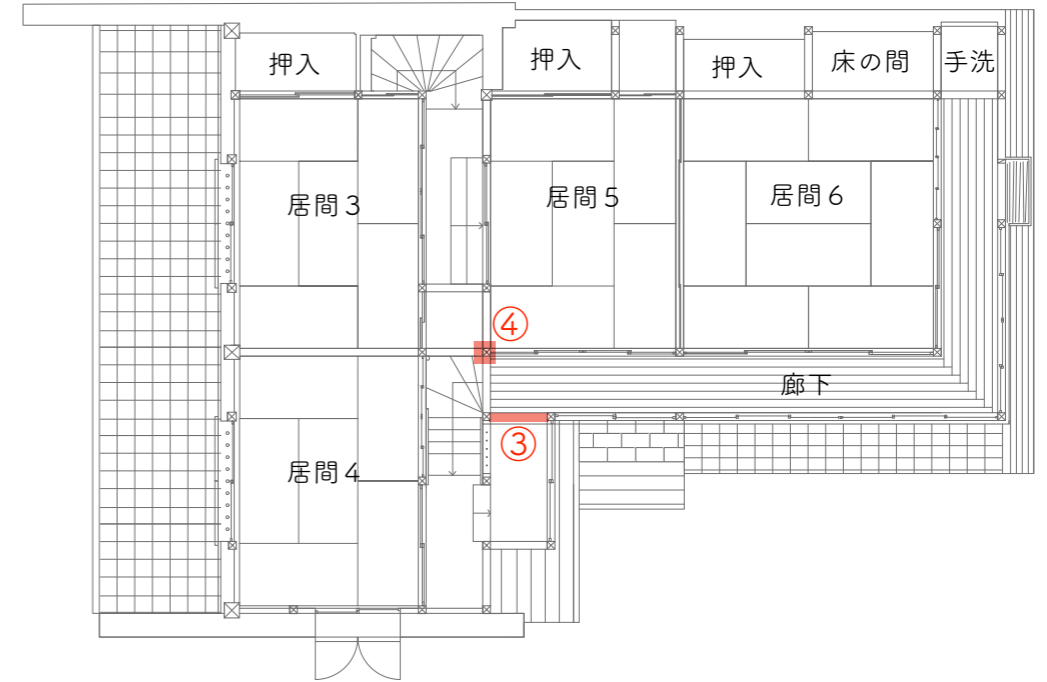
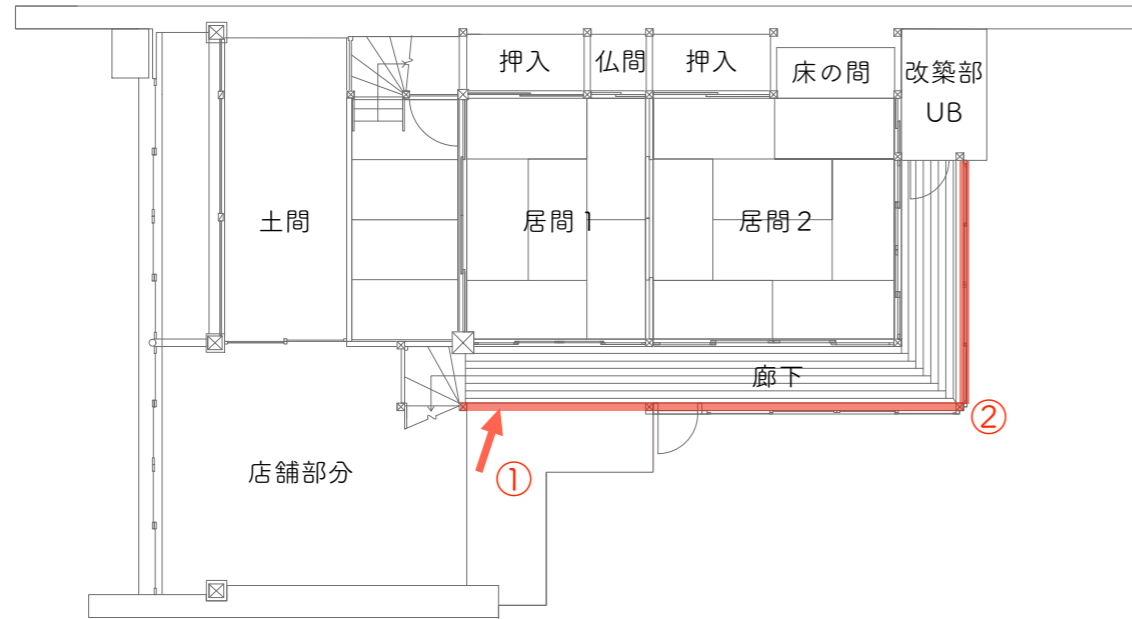
約5年ほど前まで煉瓦造の蔵が残されていたが、現在は取り壊され、住宅となっている。



レンガ壁は途中で壊されていて以前はより奥まで続いていたことが分かる。



増減築の痕跡



1階

①



廊下に沿って続く窓が増築部分まで残されている

②



1列の雨戸のレールが窓の内側に残されている

1階の廊下は元々店舗部分の方まで続いており、廊下は一本引きの引き戸のある縁側であったと推測する。

2階

③



2階にも雨戸のレールが残されている

④



接木された大黒柱

大黒柱が接木されていることから、2階住居部分が増築であることが推測できる。また、2階も1階と同じ位置に廊下が存在した。

小屋



正面店舗部分



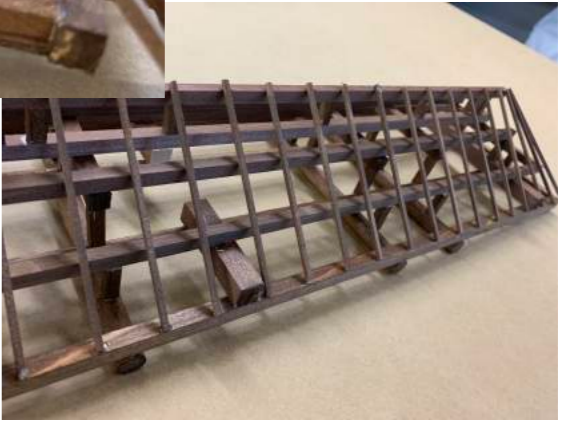
住居部分

棟札



煉瓦	棟梁	永田久太郎
神原角造	市川寅吉	木挽
	左官石田清太郎	飯野平吉

大正三年六月二十二日



小屋組模型

床下



- ・床下の束は製材されたものではなく、転用材が多く使われていた。
- ・畳の下には火鉢が当時のまま道具と共に残されていた。
- ・土台が直接地面に接地しているといった、現在では行われないうような構成が確認できた。
- ・写真奥にはレンガ壁があり、床を支える役割も果たしていることも確認できた。レンガ壁は単に防火壁としての役割を持つだけでなく、構造においても役割を果たしていた。



畳の下には火鉢が残されていた。



転用材が利用されている

まとめ

増減築によって時代に合わせて変化してきた板五米店という建築を調査し、
当時の建築の状態を保存してだけでなく、積極的に活用することが
建築として活きた保存を可能にするのではないだろうか。



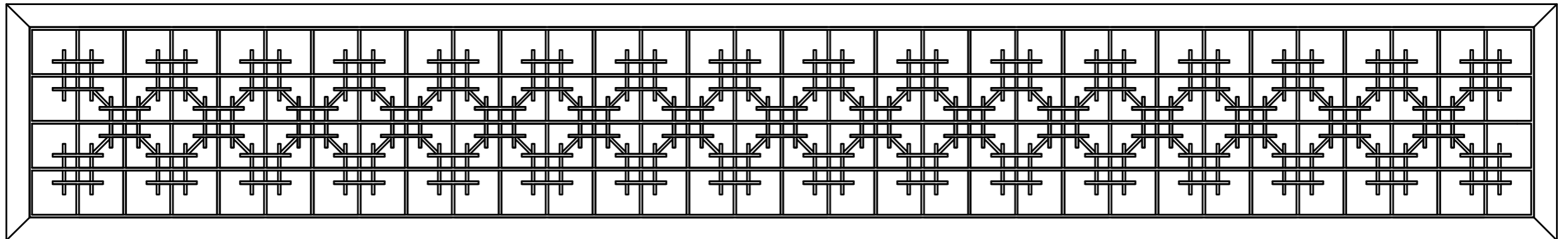
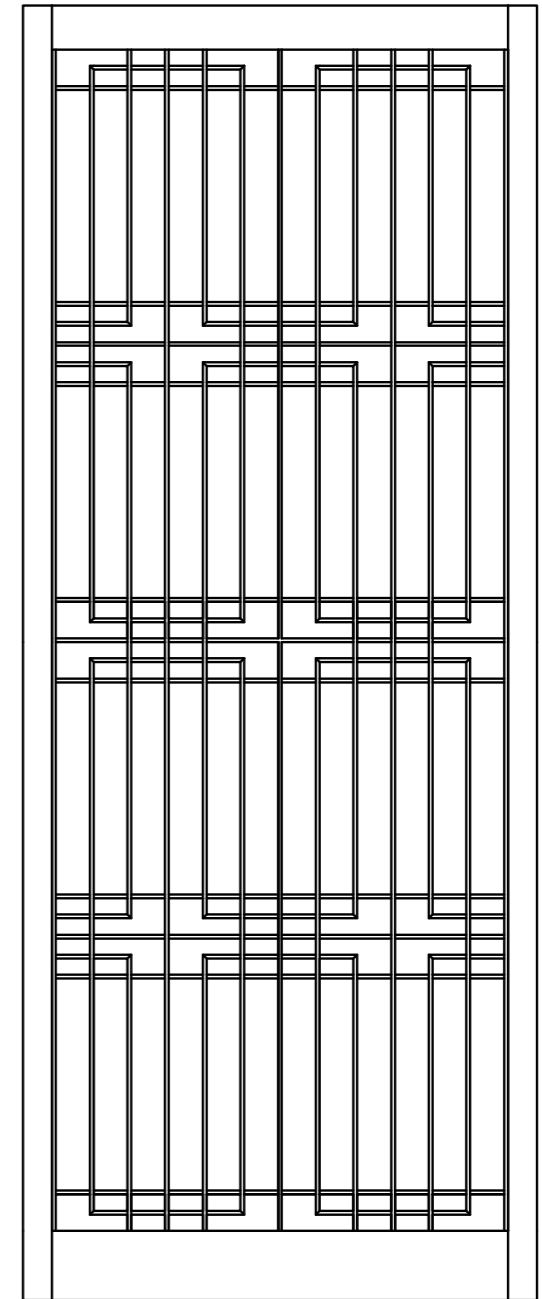
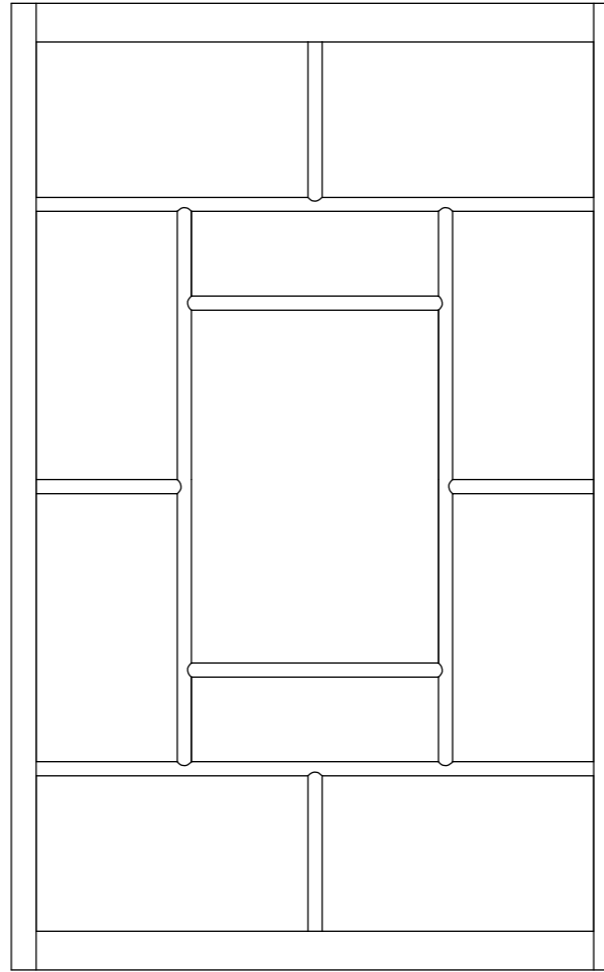
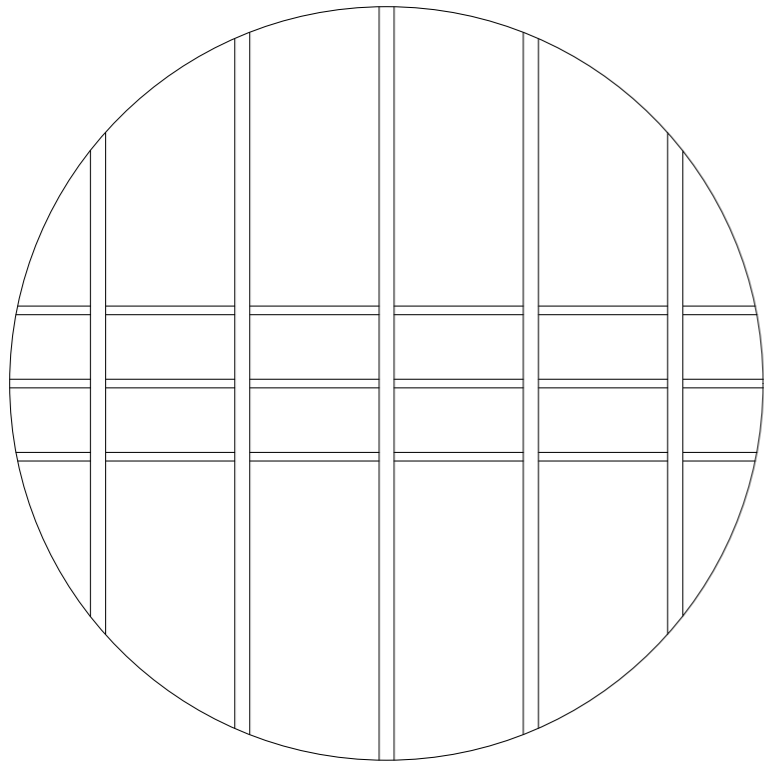
実測調査



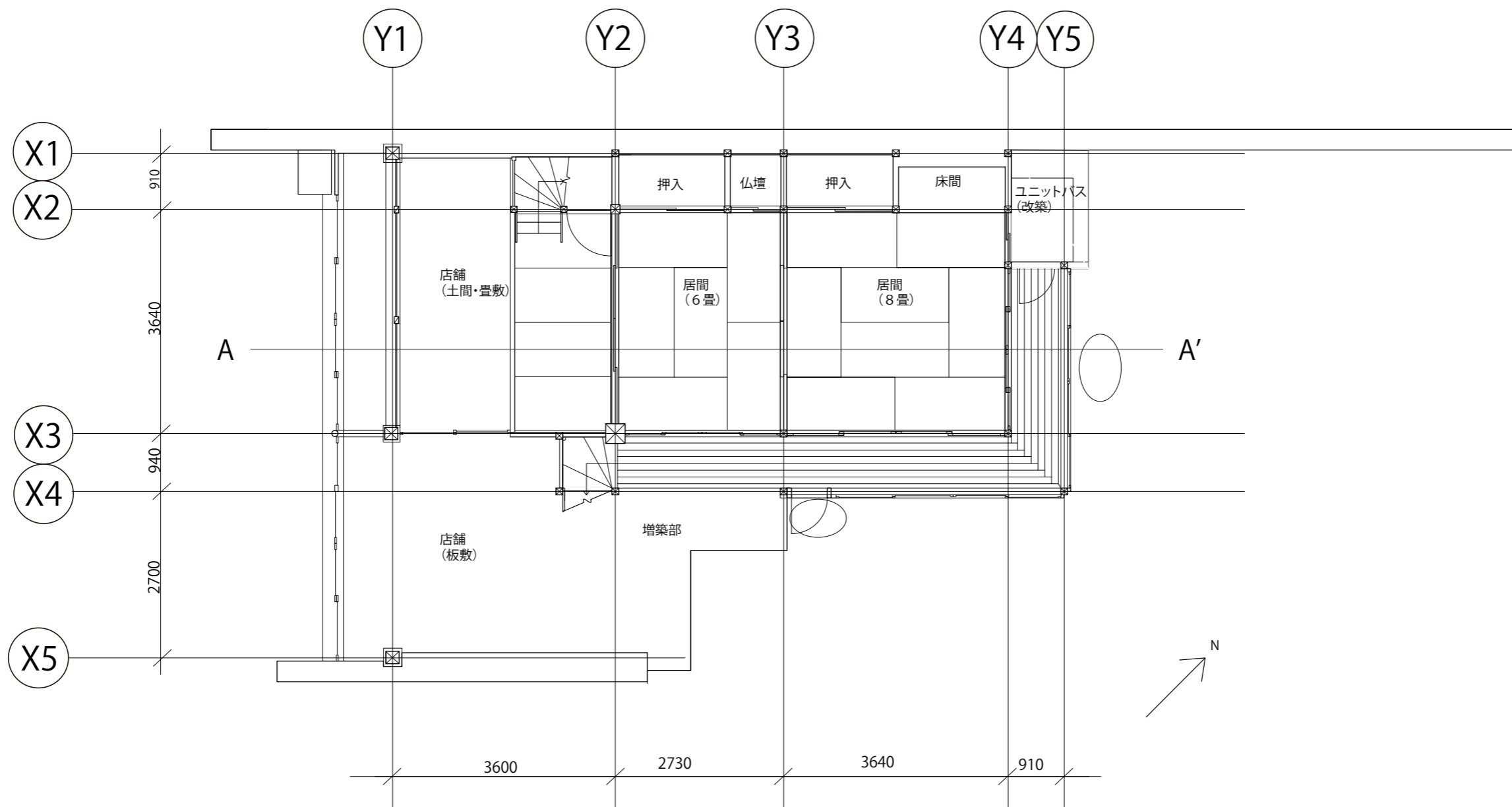
模型写真



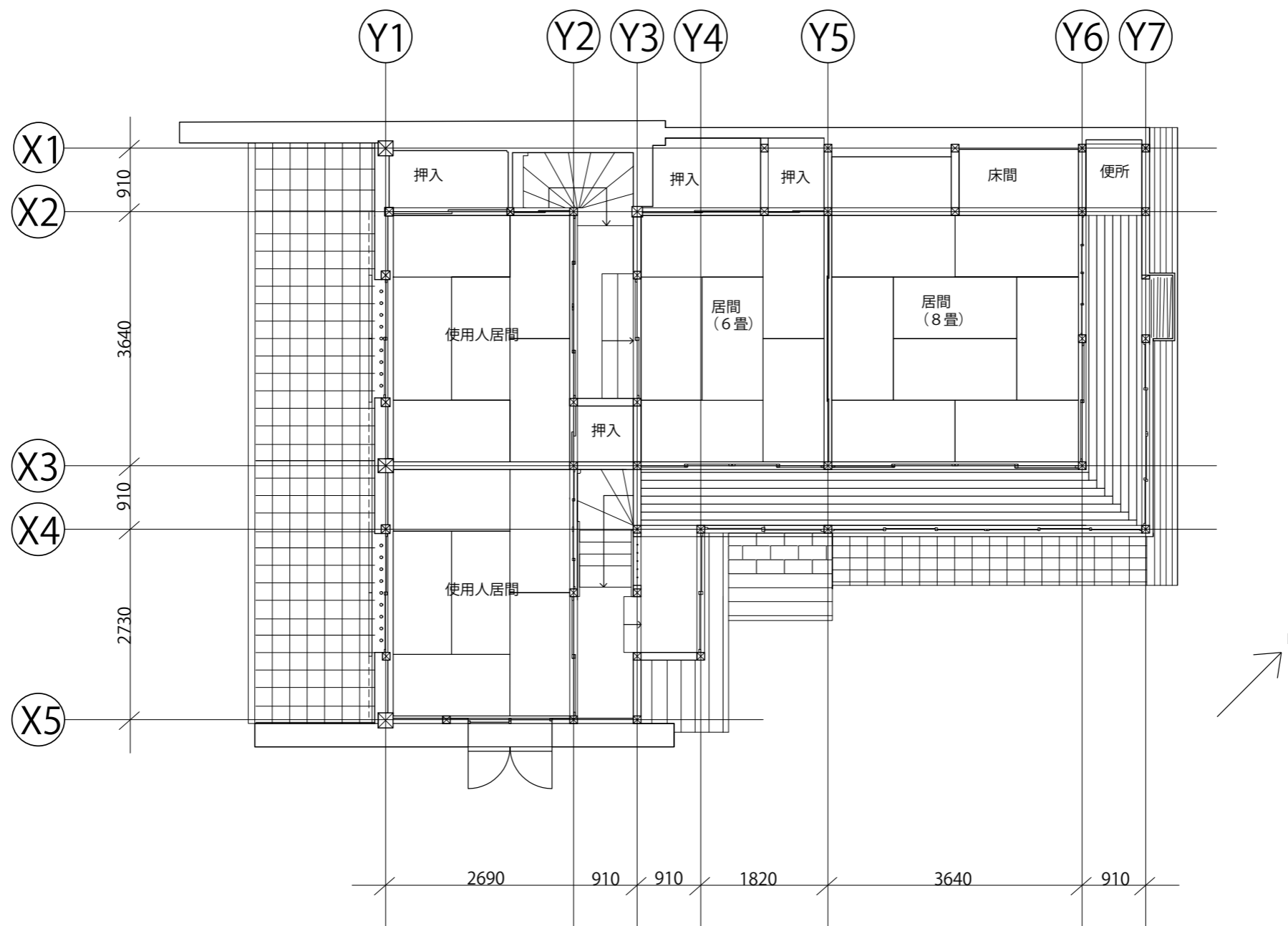
建具図面



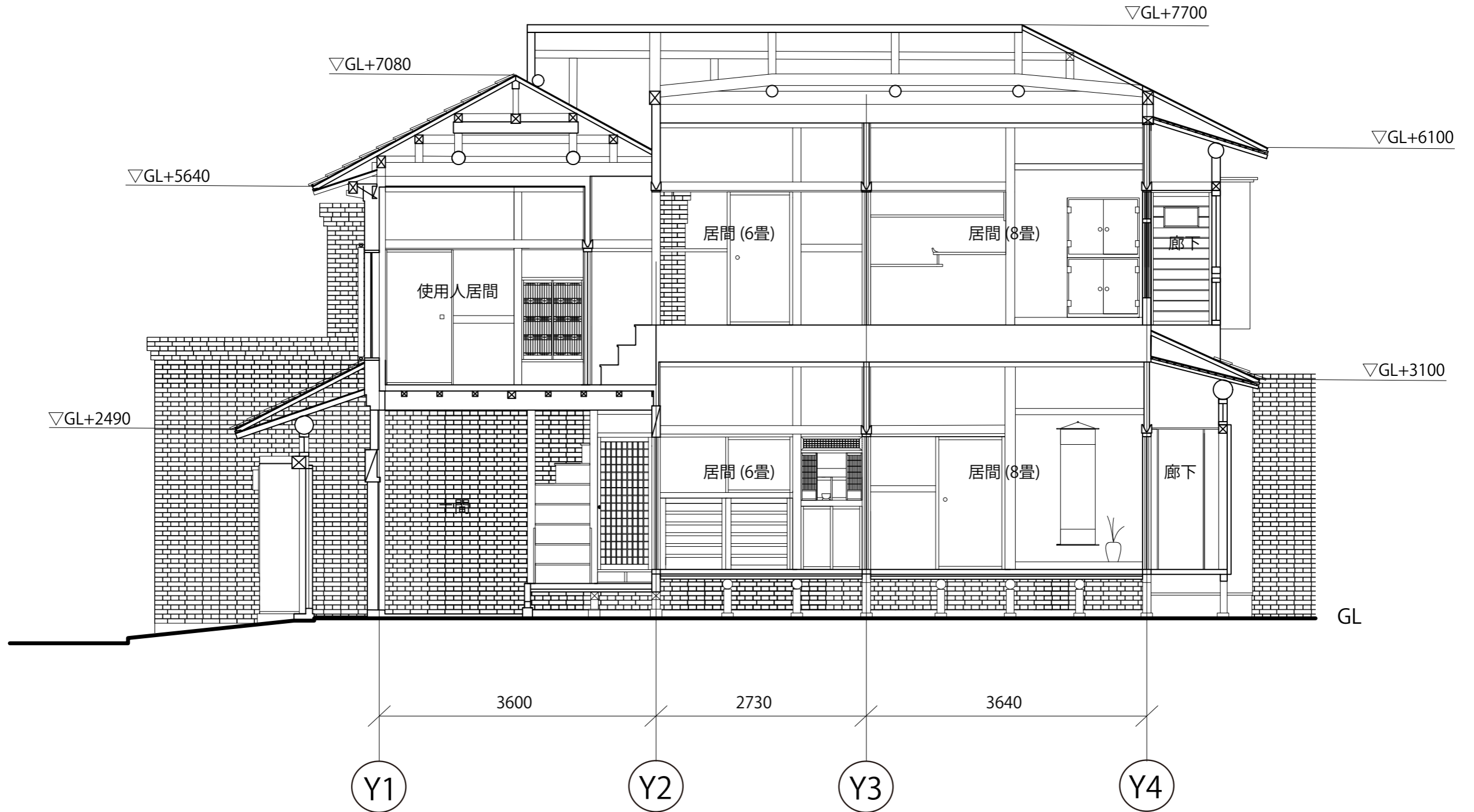
1階平面図



2階平面図



A-A'断面図



配置図兼屋根伏図

